（1990年7月13日 第三種郵便物認可）

自治労きょうと

毎月1日、15日発行

9／1 2022 第847号

発行所・自治労京都府本部・〒604－0867 京都市中京区丸太町通烏丸西入北側N・H・Kビル2F
TEL.075－252－5932・FAX.075－231－4918　発行人・岡本哲也　編集人・増永浩子
定価　一部10円　本紙の購読料は組合費に含まれています。

ご意見をお寄せください

自治労京都府本部では、組合員のみなさんのご意見を募集しています。組合のこと、機関紙のことなど、たくさんのご意見をお待ちしています。
TEL.075-252-5932　FAX.075-231-4918
E-mail : jichiro@jichiro-kyoto.gr.jp
http : //www.jichiro-kyoto.gr.jp/

2022京都自治研集会

公共サービスが創る新しい絆

府本部は8月5日、京都テルサで2022京都自治研集会をNPO法人京都自治総研と共催した。ソーシャルディスタンスを保ち、参加人数は組合員や自治体議員など70人となった。「公共サービスが創る新しい絆～パンデミックを乗り越えて」をテーマに、全体会では基調提起と記念講演、分科会では各単組からのレポート発表が行われた。

主催者を代表して岡本哲也委員長は、居住する区域の取り組みを紹介し「坂が多く高齢者には住みづらい地域。住民が竹などの廃材を使ってベンチを作り、個人宅の脇に置き、休憩場所を作った。高齢者だけでなくホッとする場所。自治労の取り組みも人に優しいホッとする場所にしていければ」とあいさつ。

次に、増永浩子実行委員長が、人口減少・高齢化・感染症と向き合う公共サービスの在り方について、「行政はお金も人も足りない。地域住民と一緒に考え、一緒によりよい公共サービスを作ることが必要」と述べ、「質の高い公共サービスを提供するためには、働くものが働きやすい環境づくりに向けた労働組合の取り組みが重要だ」と基調提起を行った。

続いて、慶応大学経済学部の井手栄策教授より「今、必要とされる公共サービスと国のかたち」と題した記念講演を行った。かつてのスウェーデンやアメリカでの経済危機に際し、『危機の時代』ほど共に生きる。共生という考え方が前面に出る」と述べ、「現代のコロナ危機ではアメリカやイギリスでも教育や介護の無償化や自己負担の上限を設定している。新自由主義のイメージがアメリカでも人種や性別、居住地を問わずすべての人を巻き込んだ政策を掲げている。日本は、困っている人は自己責任で政府の責任ではないという社会風潮で、さらに多くの人が自分は中流階級だと信じている。つまり『困っている人は助けましょう』が通用しない社会が出来上がっている。」と話し、「みんなが安心して暮らせる社会への転換」の必要性を訴えた。

さらに、「医療や介護、育児などみんなが必要とする『ベーシックサービス』を無償化する。消費税を上げてでも、年収300万円でも安心して生きていける社会をめざす。という考え方を広めたい。ただし、ベーシックサービスだけでは地域の中での一人一人の生きづらさや困りごとは解決できない。その人の置かれている環境を構造ごと変えることがソーシャルワークの重要な役割だ。地域のことを一番よく知る公務員の経験が、ソーシャルワークが機能する鍵となる。そのためにも地域とネットワークを作りながら、地域ぐるみで公共サービスの提供を。公・共・私がベストミックスの関係で満たしあう社会。これがめざすべき、これからの国のかたちだ」と訴えた。

分科会では、各単組から提出された9本のレポートが報告された。分科会担当の助言者より優秀レポート賞を選定した。受賞者は、10月7～8日に静岡で開催される第39回地方自治研究全国集会に招待する。

▲よりよい公共サービスのあり方について学習

▶井手栄策教授

優秀レポート賞

優秀レポート賞の受賞者は次のとおり（かっこは発表者）。

●「田辺公園スケートパーク」京田辺市職・住井祐介

▲京田辺市職・住井さん

●「市民に必要とされる職場づくり」八幡市職労・丸岡良洋・奥村将真（松本和真）

▲八幡市職労・丸岡さん・松本さん

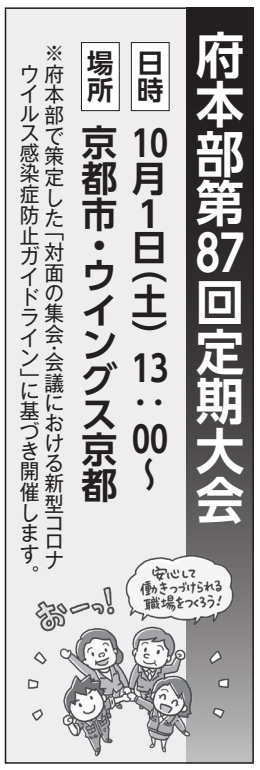
●「0（ゼロ）から始めて大きな価値に～廃棄せざるをえない備蓄米を学校給食で提供する取り組み」京都市学給労・田和智子（西岡千恵美）

▲京都市学給労・西岡さん

府本部第87回定期大会

日時　10月1日(土) 13：00～
場所　京都市・ウイングス京都

※府本部で策定した「対面の集会・会議における新型コロナウイルス感染症防止ガイドライン」に基づき開催します。



近畿地連スポーツ大会が和歌山で開催

野　球：強豪相手に善戦
バレー：惜敗も3位入賞

8月1～2日、自治労近畿地連第42回スポーツ大会が和歌山市で開催。新型コロナウイルス感染拡大の影響で3年ぶりの開催となった。京都からは、野球の部に福知山市職連、バレーボールの部に八幡市職労が出場した。

野球の部は、近畿各府県の代表と前回大会優勝チーム、開催県本部代表の計8チームが出場。福知山市職連は、1回戦で前回優勝の宝塚市職と対戦した。福知山は4回表、2死からのランナーを左中間を破る二塁打で1点を先制。宝塚は4回裏、四球とエラーを絡めて2点を取り逆転。さらに5回裏に犠飛と2点タイムリー二塁打で3点を追加した。福知山も6回表に1点を返したが追いつけなかった。

バレーボールの部は、近畿府県の6チームが出場。八幡市職労は1回戦で全国大会常連の強豪・豊中市職（大阪）と対戦し、セットカウント0対2で惜敗した。トーナメントの同ゾーンのチームが棄権したため、3位入賞を果たした。

▲3位入賞に喜ぶ八幡市職労

▲福知山市職連、先制のホーム

双思交

1923年9月1日に発生した関東大震災にちなみ毎年9月1日は「防災の日」として、また、防災の日を含む1週間を「防災週間」として全国各地で防災訓練や啓発活動が行われている。京都府でも9月4日に断層による直下型地震並びに水害の複合災害を想定した訓練が予定されている▼各自治体ではハザードマップが用意され、災害の種類ごとに、どこに避難すれば良いのかが分かり易く記載されている▼しかし近年、地球温暖化の影響からか、突発的かつ局所的な集中豪雨や台風の大型化による水害が多発し、いつ、どこで大きな災害が発生してもおかしくない状況となっている。そう考えると各世帯でも防災について備えておく必要がある▼大切な生命と財産を守るにはどうすれば良いのか。悩みは尽きないが、避難所までのルートを歩いてみるなど出来ることから行動あるのみではないだろうか▼忘れがちだが、被災後の再建計画も要検討を。備えあれば憂いなし。是非、「自治労・住まいる共済」へのご加入を検討してほしい。（英）

視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用出来ない人のために、営利を目的とする場合を除き「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等の製作をすることを認めます。その際は著作権者、または、出版社まで御連絡ください。

青年部

職場の合理化に対抗するため仲間づくりを強化しよう

青年女性中央大交流集会に参加して

第23回自治労青年女性中央大交流集会がTOC有明で開催され、京都から1人参加。全国223単組から346人（うち、ウェブが127人）が集結した。

はじめに、川本実行委員長から挨拶があり、続いて参議院議員の鬼木まこと氏から、参議院選挙の当選報告および今後の強い意気込みを聞いた。

基調講演では、東京大学の斎藤幸平准教授から、「ポストコロナ時代のあたらしい社会のあり方」と題した講演を聞き、日本がめざしている経済や環境の在り方は本当に正しいのか、少し違う角度から、様々な問題を指摘し、考え直すことができた。

次に、寸劇スタイルで職場の実態を取り上げた「構成詩」の発表があり、単組における今日の労働環境の実態や、実際に行われた賃金要求の現場が再現されており、興味深いものであった。

2日目は終日、職種別分散会が開催された。「反合理化」をテーマに、全国各地の同じ職種で働く者同士で班を構成し、各々が事前に作成した、職場での実態を記した資料を共有し、意見交換を行った。今日の労働環境は、生産性の向上が重要視され、ムダを排除するために様々な合理化を強いられていることを再認識した。例えば、システムの導入は、一見、作業効率がアップすると思われる一方、導入を理由に、職員の削減が行われ、また、システムの操作にはかなりの集中を要することから、労働強度が増し、労働者の心身が脅かされることなどがあげられる。そして、労働者自身も、そのような使用者側の合理化に気づいていないこともあることを学習した。

最終日の閉会集会では、防衛ジャーナリストの半田滋氏から、「ロシアのウクライナ侵攻と日本の安全保障政策」と題する記念講演を受けた。ロシアとウクライナが戦争に至った経緯や、今般の中国と台湾の情勢等について講演を聞いた上で、日本も他人事ではないことを痛感した。

最後に、職場で起きている様々な合理化に対抗するため、組合員一人一人が見識を深め、仲間づくりを強化することが求められていることを全体で確認し、3日間の集会は閉会した。

（青年部・小笠原隼）

職場のハラスメントをなくそう

公企評　水週間学習会

府本部公企評は7月29日、2022水週間学習会を開催。ウェブ参加を含め4単組7人が参加した。

府本部水週間では例年、水にまつわる施設見学等を実施してきたが、コロナ禍のため昨年に引き続き施設見学を断念。各単組の組織強化を目的として「職場の働き方改革やハラスメント対策～労働組合としての取り組み」と題した学習会を開催した。講師には、自治労公企評より福永浩二公営企業局長を招いた。

講師は、働き方改革や職場のハラスメント対策について、法的観点や具体的事例について解説。ハラスメントをなくすには、職場の一人ひとりの意識と取り組みが必要で、「加害者はもちろん傍観者にならないことが大事だ」とし、「職場でのお互いのあいさつが重要」と話した。

また、労働組合として「①正確な知識や共通の認識を持つための学習会の実施②アンケートを通じた実態把握③相談窓口の設置④当局対応義務について点検し交渉すること。などの取り組みが重要となる」と訴えた。

怒りの感情をコントロールしよう

近畿地連書記会議が学習会

近畿地連書記会議は8月10日、2022年度学習会をウェブで開催した。近畿各府県の県本部、単組で働く書記52人が参加した。

学習会は講演2本立てで行われ、一つ目は、(株)アトリエエムの三木啓子さんを講師に「アンガーマネジメントでパワハラ防止」と題した講演を受けた。講師はアンガーマネジメントについて「怒りを我慢するのではなく、必要に応じて上手に怒り、必要のないものに対しては怒らないようになること」と説明。怒りの感情がすべて悪いわけではなく、その感情を自分でコントロールできるようになることが大事だと話し、怒りの原因やその裏側にある第1次感情、上手な伝え方などを学習した。さらにパワハラ対策として、ハラスメントは人権侵害だとして、ハラスメントの具体的な事例や相手をリスペクトすることの大切さを聞いた。

▲三木啓子さんによるウェブ講演

続いて、全国書記会議のヤロシュ事務局長より「声に出して読みたい自治労書記政策」についての講演を受けた。全国的な組合員の減少や役員任期の短期化など自治労を取り巻く課題は多い。書記を雇用するすべての単組で書記政策を広め、役員と書記が「良好なパートナーシップ」を築き、自治労運動を推進しようと訴えた。

じちろう
マイカー共済
こくみん共済 coop NEWS
5121A077
自動車総合補償共済
注目
団体割引 32.5%※
自治労共済生協組合員には
団体割引を適用
掛金体系の変更による
職域掛金廃止に伴い
団体割引率を変更
団体割引は多くの
組合員の利用と
安全運転に
支えられています。
まずは
見積もりを
見積もり依頼は
組合まで
自治労共済推進本部は
「7才の交通安全プロジェクト」
に取り組んでいます。
※団体割引は、車種や補償内容により割引率が異なる場合があります。また、毎年11月時点の実績により変動することがあります。
不明な点があれば、まずは組合にご連絡ください。
こくみん共済 coop〈全労済〉全国労働者共済生活協同組合連合会
自治労共済 推進本部
全日本自治体労働者共済生活協同組合
契約にあたってはパンフレットをご覧ください。
「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地（先）の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

2022年度秋期
京都労働学校
・英会話教室
受講生募集
10・11月開講
受付中

自分をアップデートしよう！
New　ゲームで学ぶ「お店の数字」入門、ポジティブ心理学入門　他
オススメ　3級FP、入門！中小企業と労働法、スマホカメラ初心撮影入門
簿記、韓国語超入門、英会話：リスニングのコツ、会話を続けるテクニック他
主催：京都市・ラボール学園（公益社団法人京都勤労者学園）
お申し込みは、WEB・電話にて
☎ 075－801－5925
受付時間：平日9:00～20:00、土曜9：00～17：00（日曜・祝日は休み）
詳しくはHP/講座案内をご覧ください。
中京区四条御前　ラボール京都3F
ラボール学園　検索